

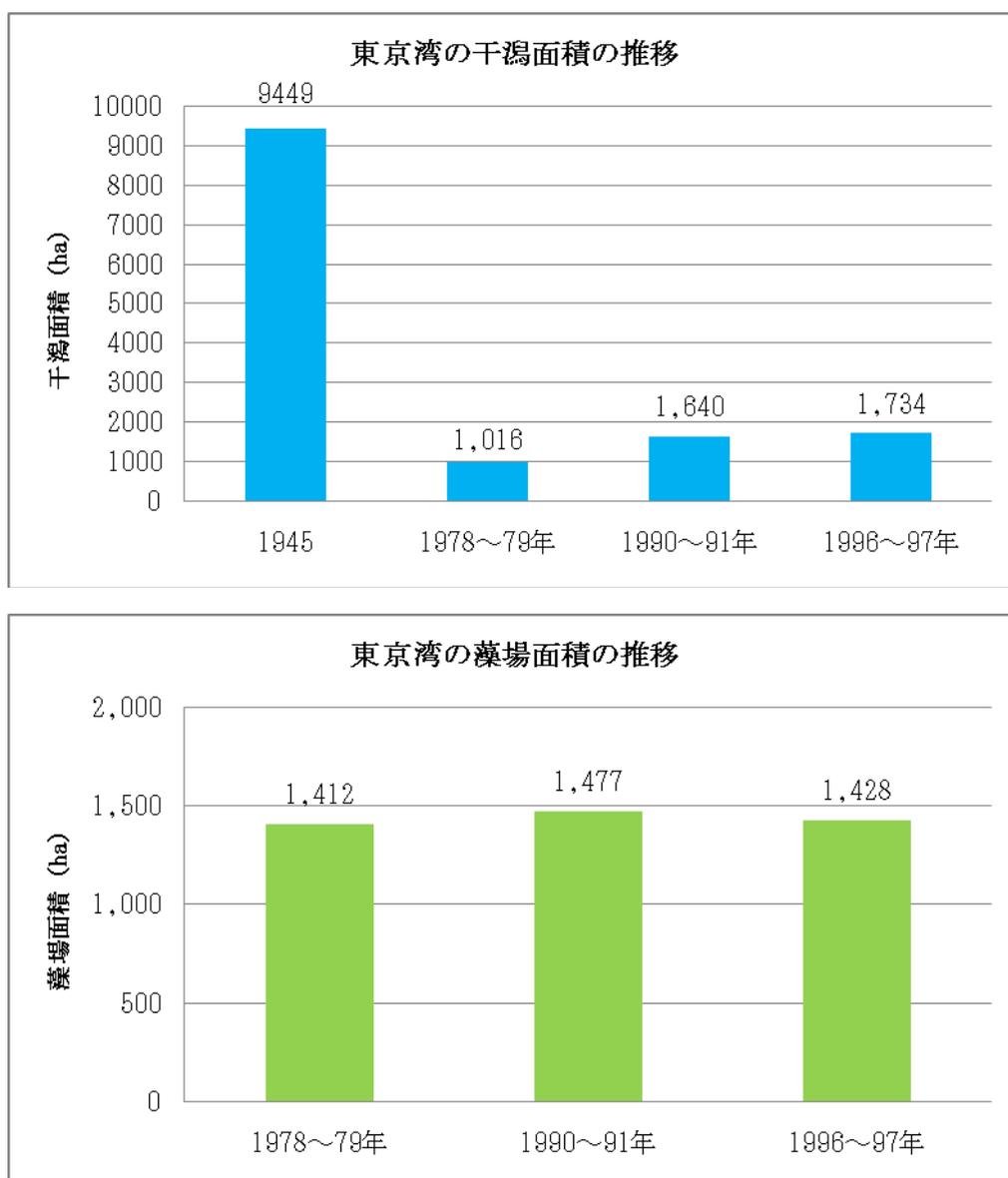
## 干潟・藻場の現状

## 1. 干潟・藻場の現状について

## (1) 東京湾

環境庁が実施した自然環境保全基礎調査によると、東京湾における干潟の面積は1945年から1978～79年にかけて大幅に減少したが、それ以降は徐々に増加しており、約1,700ヘクタールである。

一方、藻場の面積は大きな変化はなく、約1,400ヘクタールで推移している(図7-1)。



<干潟・藻場面積>

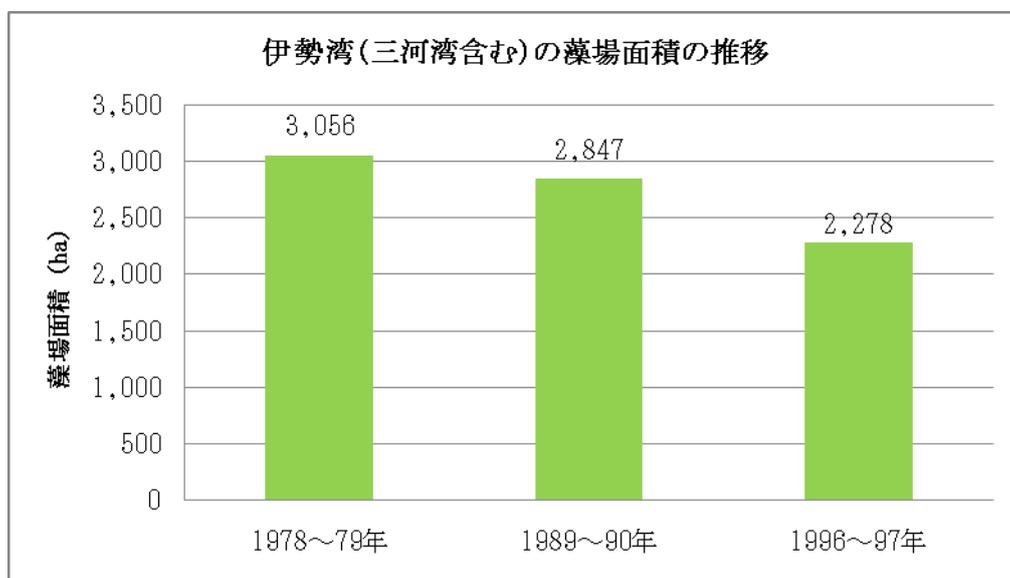
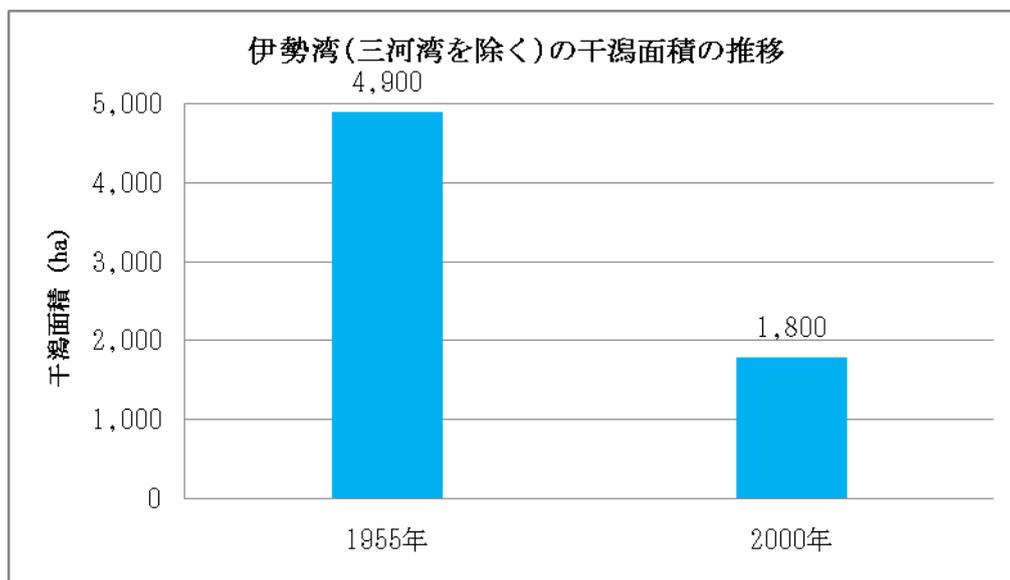
- ・1945、1978～79年：「第2回自然環境保全基礎調査 海域調査報告書」(環境庁)
- ・1990～91年：「第4回自然環境保全基礎調査 海域生物環境調査報告書」(環境庁)
- ・1996～97年：「第5回自然環境保全基礎調査 海辺調査」(環境庁)

図 7-1 東京湾における干潟・藻場面積の推移

## (2) 伊勢湾

伊勢湾における干潟の面積は1955年に4,900haであったが、2000年にかけて大幅に減少し、面積は約1,800haである。

一方、藻場の面積は1978～79年以降減少傾向にあり、1989～90年から1996～97年にかけては面積が大きく減少し、約2,300ヘクタールとなっている(図7-2)。



<干潟面積>

- ・1955年、2000年：「伊勢湾の生態系の回復に関する研究」  
(平成15年3月、三重県科学技術振興センター)

注) 干潟面積は伊勢湾(三河湾を除く)における面積である。

<藻場面積>

- ・1978～79、1989～90年：「第4回自然環境保全基礎調査 海域生物環境調査報告書」(環境庁)
- ・1996～97年：「第5回自然環境保全基礎調査 海辺調査」(環境庁)

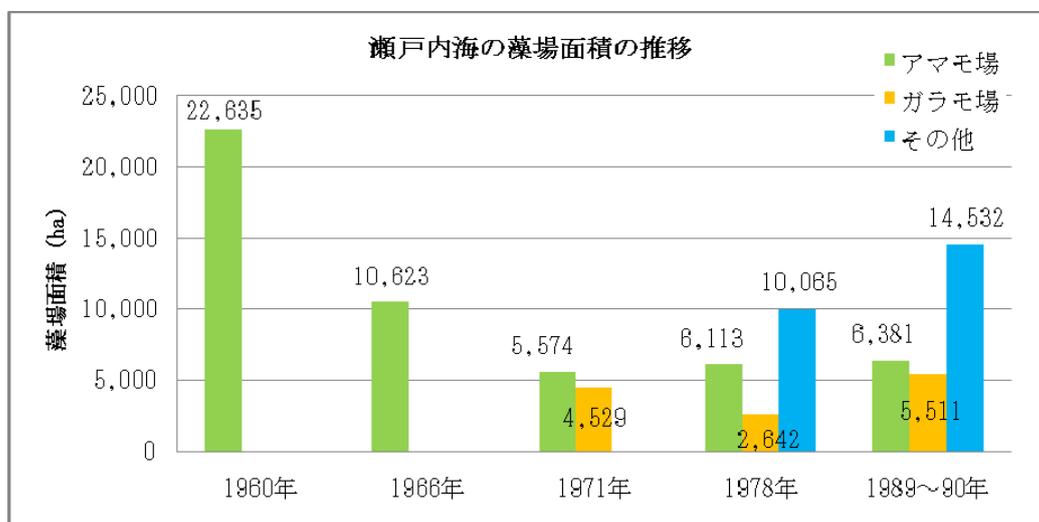
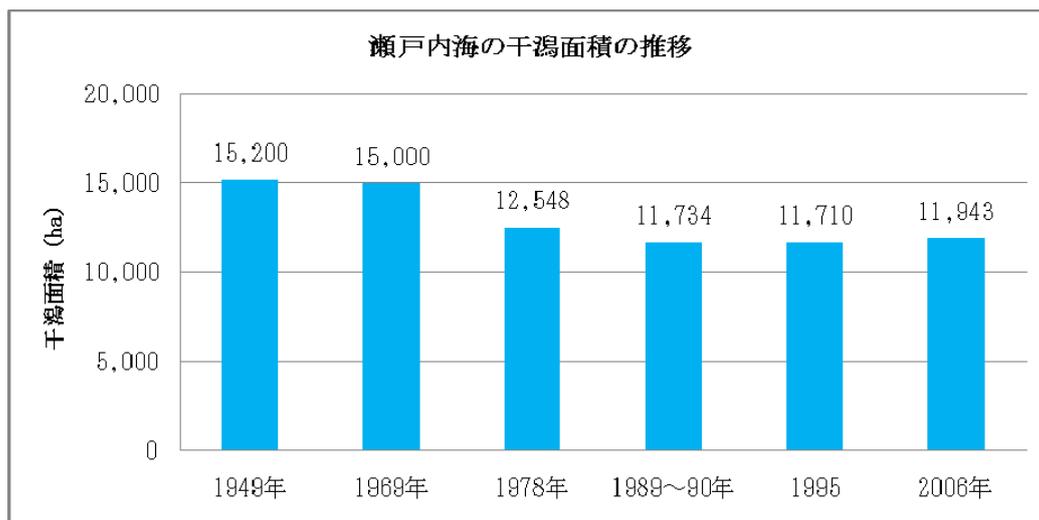
注) 1978～79年の藻場面積は、1989年～90年の面積に、1989以前に消滅した面積を足し合わせて算出した。

図7-2 伊勢湾における干潟・藻場面積の推移

### (3) 瀬戸内海

瀬戸内海における干潟の面積は、1949年から1995にかけて徐々に減少したが、1995年から2006年にかけて増加しており、面積は約11,900haである。

一方、藻場の面積は種類別ではアマモ場が1960年以降1971年にかけて大幅に減少したが、その後増加に転じており1989～90年の面積は約6,400haである。ガラモ場は1971年から1978年にかけて減少したが、1989～90年にかけて増加しており、1989～90年の面積は約5,500haである。また、その他の藻場については1978年から1989～90年にかけて増加している（図7-3）。



<干潟面積>

- ・1949、1969年：「瀬戸内海要覧」（建設省中国地方建設局）
- ・1978年：「第2回自然環境保全基礎調査 海域調査報告書」（環境庁）
- ・1989～90年：「第4回自然環境保全基礎調査 海域生物環境調査報告書」（環境庁）
- ・1995年：「第5回自然環境保全基礎調査 海辺調査報告書」（環境庁）
- ・2006年：「瀬戸内海干潟実態調査」（環境省）より

注）出典により、面積測定方法に違いがある。

<藻場面積>

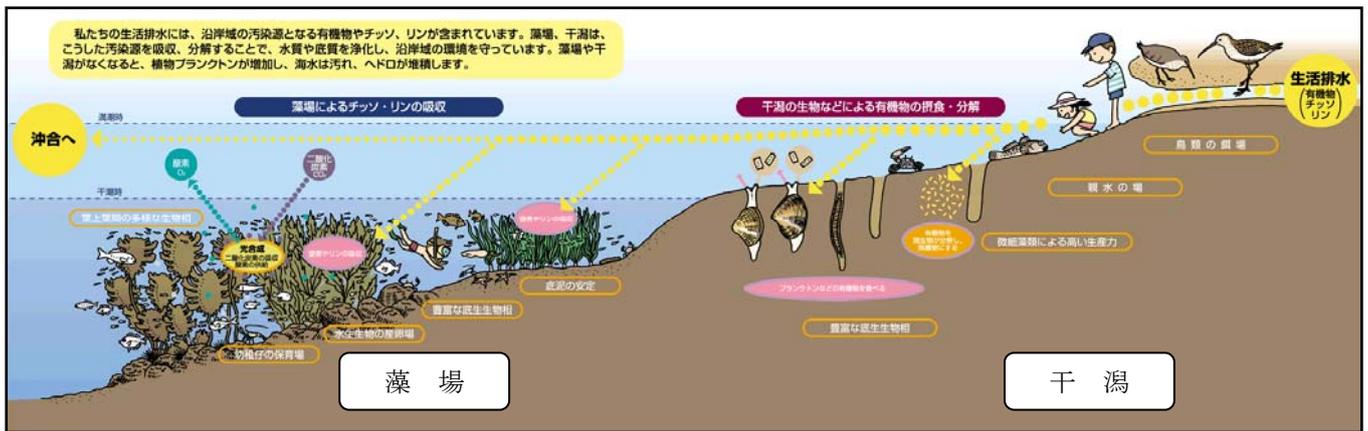
- ・1960、1966、1971年：「水産庁南西海区水産研究所調査」より
- ・1978年：「第2回自然環境保全基礎調査 海域調査報告書」（環境庁）より
- ・1989～90年：「第4回自然環境保全基礎調査 海域生物環境調査報告書」（環境庁）より

図7-3 瀬戸内海における干潟・藻場面積の推移

## 2. 干潟・藻場の機能について

干潟が海域において果たす機能としては、窒素やリンの吸収及び脱窒による窒素の除去、ろ過食性動物による有機物の除去、多様な生物種の保全、幼稚仔の保育場、鳥類の餌場や休息場の提供といった生物多様性維持の機能等がある（図 7-4）。

また、藻場が海域において果たす機能としては、窒素やリンの吸収、透明度の増加と懸濁防止、酸素の供給といった水質浄化の機能、多様な生物種の保全、産卵場や幼稚仔の保育場の提供、希少生物への餌の提供といった生物多様性維持の機能等がある（図 7-4）。



### <藻場・干潟の機能>

藻 場	干 潟
1. 水質浄化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・窒素、リンの吸収による富栄養化の防止</li> <li>・透明度の増加と懸濁防止</li> <li>・生物の生存に不可欠な酸素の供給</li> </ul>	1. 水質の浄化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・窒素、リンの吸収による富栄養化の防止（微小藻類）</li> <li>・ろ過食性動物による有機物の除去（二枚貝類）</li> <li>・脱窒による窒素の除去（バクテリア）</li> </ul>
2. 生物多様性の維持 <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な生物種の保全（葉上・葉間・海底）</li> <li>・産卵場の提供</li> <li>・幼稚仔の保育場の提供</li> <li>・流れ藻として産卵・保育場を提供</li> <li>・希少生物への餌の提供</li> </ul>	2. 生物多様性の維持 <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な生物種の保全（干潟固有の生物）</li> <li>・幼稚仔の保育場の提供</li> <li>・鳥類への餌場・休息場の提供</li> </ul>

資料：水産庁資料 水産庁HPより

図 7-4 干潟・藻場の機能